

## 治療

# 道内初の最新鋭の320列CT導入 「外来で低侵襲の即日診断」を実現

循環器の専門クリニック(19床)として昨年8月に開院した。

同院の最大の特徴は低侵襲をテーマに診断から治療まで最先端医療を外来で提供していること。具体的には、道内初となる320列の最新バージョンのCTを導入、放射線被爆量を著しく低減した状態で心臓血管の冠動脈の画像を撮影でき、外来で1時間以内での確な診断をすることができると。そのため入院して冠動脈造影する必要がない。

これまで評価の難しかった高度石灰化やステント内腔に関して特殊な撮影手法とサブトラクション技術との組み合わせにより、評価



華岡 慶一 理事長・院長

(はなおか けいいち) 北大医学部卒。同大病院第一内科入局。市立旭川病院、国立札幌病院、JCHO北海道病院(旧北海道社会保険病院、心臓血管センター長・内科部長)を経て、昨年8月に開業。日本循環器学会認定循環器専門医、日本心臓インターベンション治療学会(CVIT)専門医。医学博士。

可能な画像が得られ、より

正確な冠動脈の情報取得ができる。

「この320列CTで、循環器のほぼ全

ての疾患の診断が付き、治療方針の決定もできる」と華岡慶一院長。

さらにハードウェアのみならず、ヒューマンリソースによるソフトウェアを整え、診療放射線技師(3名)が拍動する心臓の一瞬(0.275秒)を捉え、患者の状態などに合わせた画像を作成、専門医がその画像をもとに1時間程度で診断を行う。

華岡院長は「狭心症や心筋梗塞などの急性期疾患は時間との闘いなので、外来ですぐに診断がつけば、患者さんの不安がなくなる。また診断の段階で医師が治療のデ



ザインを描くことができ、即座に適切な治療の選択ができるメリットは大きい」と説明する。

そのため、多くの病院や診療所から患者の紹介があるのはもとより、医師自身が受診のため同院を訪れるという。

華岡院長のほかに、古谷純吾副院長、岡林宏明診療部長、石丸伸司診療部長、五十嵐正医長、菅家鉄平医長、川崎まり子医長、柿木梨沙医師の計8名の医師が診療。

全員がさまざまな専門医・認定医の資格を有し、冠動脈治療や不整脈におけるアブレーション治療、末梢血管、心臓リハビリなど、各々の専門性を発揮しながらチーム医療に取り組んでいる。また俱知安厚生病院などで非常勤医師として診療、地域医療支援にも力を注ぐ。そのほか同院はライブ手術の実

施医療機関でもある。ライブ手術というのは全国から循環器の専門医が集まって公開手術を行い、ホテル会議室のスクリーンを通じて全国から集まった医師らが中継を見ながら手技などについて情報交

換や議論を行うもの。

華岡院長はカテテル治療を研究・教育する日本心臓インターベンション治療学会(CVIT)の理事・北海道支部長。昨

年9月2日に同院でライブ手術が行われ、華岡院長らが冠動脈の慢性完全閉塞の公開手術を行い、ロイトン札幌に約1000人の医師らが集まった。

「開院以来、多くの患者や医師に支持され、実を結んできた。将来的には24時間365日の救急体制を充実させ、最先端の専門医療の提供と地域医療の支援に尽力していきたい」(華岡院長)



▲道内初の最新鋭の320列CT

## 医療法人春林会 華岡青洲記念心臓血管クリニック

札幌市豊平区美園3条5丁目3番1号  
☎(011)350・5858